

婦人科領域の腫瘍マーカー測定の意義



腫瘍マーカー検査は補助的な検査であり、ほかの検査と組み合わせる事ではじめて意味のある検査になります

腫瘍マーカーとその診断的な意味

がん細胞だけが作り出す特別な物質があって血液検査で測定・診断できれば、胃カメラやマンモグラフィなど苦痛を伴う検査を受ける必要はなくなるかもしれません。つまり、がん検診は今より楽になるはずですが、現実の腫瘍マーカーは、前立腺がんのPSAや絨毛がんのhCGなど一部の例外を除外すると、がんがある一定以上の大きさにならなくては異常値にならないうえ、がん以外の良性の病気やその時の身体の状態や体質で異常値になる場合があります。

つまり検査としての感度は低く特異度も不十分なので、腫瘍マーカー測定単独ではがんの早期発見はできません。

婦人科疾患に関連するおもな腫瘍マーカーとその意味

【CA125】（糖タンパク抗原）：基準値 35U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、子宮体癌、肺癌、膵臓癌、癌性腹膜炎など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：子宮内膜症、胸水・腹水の貯留、月経中の検査、妊娠、肝硬変、人工透析中など

【CA19-9】（糖鎖抗原）：基準値 37U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、子宮体癌、膵臓癌、胆嚢癌、胃癌、大腸癌、肺癌、肝臓癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：子宮内膜症、良性卵巣腫瘍（特に成熟嚢胞性奇形腫）、リウマチ、自己免疫疾患、膵炎、糖尿病、人工透析中など

【STN】（糖鎖抗原）：基準値 45U/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：卵巣癌、胃癌、大腸癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：（比較的少ない）

【CEA】（糖タンパク抗原）：基準値 2.5（測定方法によっては 5.0）ng/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：大腸癌、胃癌、甲状腺癌、乳癌、卵巣癌、肺癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：喫煙、加齢、自己免疫疾患、糖尿病、人工透析中など

【SCC】（タンパク抗原）：基準値 1.5ng/ml 以下

- ・陽性となる事の多い癌：子宮頸癌（扁平上皮癌）、卵巣癌の一部、肺癌（扁平上皮癌）、食道癌など
- ・癌ではないのに陽性となる場合：湿疹・水虫など皮膚疾患、呼吸器疾患、人工透析中など